

## 第1学年 生活科 学習指導案

奈良市立東登美ヶ丘小学校

高橋 奈緒子

高橋 賢史

安藤 葵

岡本 香緒里

1. 単元名 ひろがれ えがお

### 2. 単元の目標

- ・規則正しく健康に気をつけて生活することの大切さや、家庭での生活は互いに支え合って分かり、自分の役割に気づくことができる。(知識・理解)
- ・家庭生活における家の人のこと、家の人のよさ、自分でできることについて考えたり、家庭生活が楽しくなるように工夫したりして、それを素直に表現できる。(思考・判断・表現)
- ・家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどに関心をもち、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりすることができる。  
(主体的に学習に取り組む態度)

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

子どもたちにとって、家庭は全ての活動の拠点である。しかし、この時期の子どもたちは家族に全面的に依存しているため、かえって、家族や家庭の良さを感じたり、自分が家庭でできることがあることに気付いたりしていないことが多い。子ども1人ひとりの育っている家庭環境はそれぞれ異なるが、共通して言えることは、家族みんなが支え合って生活していること、自分もその中の1人であるということである。家族と一緒にしていることや、してもらっていることを振り返り、家族のことや自分のことについて考え、家族のために役に立つ喜びと自信を実感させていきたい。また本単元では、自分のことは自分で言い、健康に気を付けて規則正しい生活が送れるようことも目指している。そして、このような活動を学校で思い出しながら、友達と交流し、自分で家庭での過ごし方を決定する場面や家庭での様子を表現し、家族の良さに気づき、自分でできるようになったことが増えてきたことにも気付くようにしたい。また、子どもが自分の家庭を見つめ家族の一員としてより良い生活をしようとする意欲や態度の育成に繋げていきたい。

#### (2) 児童観

本学級の児童は、明るく元気で、休み時間にはほとんどが運動場へ遊びに行く。男女の仲もよく、自分たちで学級のみんなでできる遊びを提案して楽しく遊ぶ姿も見られる。また、支援学級の児童2名の交流学級であり、共に生活・勉強している。けんかも少なく、友だちへ思いやりをもって接することができる。優しい言葉も掛けることができる。

また、学級の仕事にも積極的に取り組み、張り切って楽しそうに活動する姿が見られる。夏休みのがんばったことで家でのお手伝いをあげた児童もおり、だれかの役に立つことで褒められたり感謝されたりすることに喜びを感じているが、家族の一員として仕事をしている自覚はまだうすいと思われる。

#### (3) 指導観

家庭生活について調べたり、自分の家庭生活を振り返ったりする活動を通して、家の人のことや、家の人のよさ、家族の一員として自分でできることを考え、家族の温かさや家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気をつけて生活を送ることができるようにする。

また「ひろがれ えがお にこにこだいさくせん」と題して、家の人や自分自身の笑顔が広がるように、「えがおのたねをみつけよう」で家の仕事について調べ、「えがおのつぼみをそだてよう」では保護者をゲストティーチャーとして迎えて実際に仕事を体験して家で挑戦する。そして「えがおのはなをさかせよう」では家で挑戦したことでどんな笑顔が広がったか、これからの学校生活にもつながるような子どもを育てたい。

#### (4) ESDとの関連

##### ・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

公平性…家族の一員として、家庭の中の役割や仕事を果たすということ。

連携性…家族みんなが支え合って生活しているということ。

責任性…家族の一員としてより良い生活をするのが大切だということ。

##### ・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

未来を予測して計画を立てる力

家族の人がどんな笑顔になってほしいか考えそのために自分ができる仕事を見つけて計画する。

コミュニケーションを行う力

ゲストティーチャーから仕事のコツを教えてもらったり、学級で自分がした仕事を交流し、質問したりする。

進んで参加する態度

これからも家庭の中で笑顔を増やそうと考え行動する。

##### ・本学習で変容を促す ESD の価値観

幸福感を大切にする

自分が何かをすることで家の人を笑顔にしたいという願いをもっている。

##### ・達成が期待される SDGs

5 ジェンダー平等を実現しよう

8 働きがいも経済成長も

16 平和と公正をすべての人に

#### 4. 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①規則正しく生活することの大切さに気付いている。</p> <p>②家庭生活において、自分でできることや家庭での自分の役割があることに気付き、家族の温かさに気付いている。</p> <p>③自分が家族のために何かをしたり、自分でできることをしたりすることで、家族が喜んでくれることに気付くとともに、家庭生活における役割が増えた自分の成長や友達の良さに気付いている。</p>	<p>①1日の生活を振り返り、絵や文章にして表現したり、友達に紹介したりしている。</p> <p>②自分でできることや挑戦したいことを選んだり、決めたりして、計画を実行するとともに、家で挑戦したことを絵や文章で記録している。</p> <p>③家で挑戦したことを絵や文章でかいたり、実演したりして、友達に分かりやすい伝え方の工夫をしている。</p>	<p>①自分の生活に関心を持ち、規則正しく生活することや、家族の笑顔を増やす挑戦に見通しをもって取り組もうとしている。</p> <p>②家族がしていることや、家族にしてもらっていることに関心を持ち、家族の笑顔が増えるように自分にできることをしようとしている。</p> <p>③家で挑戦したことや自分でできるようになったことを友達や先生に伝えようとするとともに、家庭での自分の役割を増やしたり、これからも継続しようとしていたりしている。</p>

5. 単元の指導計画（全10時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	1 自分の1日を振り返る。 ・私は自分で起きているよ。 ・お父さんは、ぼくが学校へ行くとき、笑顔で見送ってくれるよ。 ・家の中には笑顔がいっぱいだね。 ・弟と一緒に絵本を読んだよ。 ・宿題をすると褒められるよ。 ・どうしたら家の人々の笑顔を増やせるかな。 2 気付いたことを友達と話し合う。	・起きた時刻や寝る時刻を確認することで、規則正しく生活することへの気付きを促すようにする。 ・自分の生活を振り返るとともに、家族のことについても振り返ることができるように声を掛ける。 ・家族との触れ合いの経験が少ない子どもに対しては、休日の様子を思い出すように助言する。 ・黒板を活用して、自分と友だちの1日の生活を比べて、似ているところや違うところについて気づけるようにする。	△（ア）①          △（イ）① △（ア）②
2 （えがおのたねをみつけよう）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">             ひろがれえがお にこにこだいさくせん！！           </div> 3 笑顔をひろげる作戦をたてる。 4 家の仕事について調べる。 5 自分にもできる仕事や自分がやってみみたい仕事に意欲を持つ。 ・弟の世話をしてもっと仲良くなりたいな。 ・ゴミ出しを手伝ってみようかな。 ・自分のことがもっとできるようになりたいな。 ・どうしたら家の人々の笑顔が増えるかな。	・前時の板書を用いて意見を出し、どうすれば家での笑顔が増えるか考える。 ・家の仕事を書き出し、誰がどの仕事をしているのか、宿題として調べる方法を説明する。 ・「手伝いたいこと（仲よしの笑顔）」「家族のしている仕事（ありがたの笑顔）」「自分でできること（すごいねの笑顔）」の3点に分け、仕事を一緒にすることで生まれる笑顔があることに気付かせる。 ・これからの取り組みとして、どの笑顔をもらいたいか選ばせる。 ・子どもが仕事を見つける機会をもったり、継続して行ったりできるように、あらかじめ家庭に協力を依頼しておく。	△（ウ）①          △（ウ）②          △（ア）②

<p>3 (えがおのつぼみをそだてよう)</p>	<p>6 自分でできる仕事や自分でしてみようと思う仕事を見つける。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の人にやってもらっていることで、自分でできることってどんなことだろう。</li> </ul> <p>7 自分で決めた仕事を家で挑戦してみる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でできる方法をやってみよう</li> <li>・ワークシートに記録しよう。</li> </ul> <p>8 家で挑戦したことを伝え合う。(本時)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことを自分でしたらお母さんが喜んでくれました。</li> <li>・家族の笑顔が増えると自分も嬉しくなりました。</li> </ul> </p></p></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方からゲストティーチャーを募り「家の仕事のやり方」を教えてください。</li> <li>・継続してできるような仕事を選ぶように助言する。</li> <li>・どんな小さな仕事でもその仕事をほめてやり、継続的に出来るようにする。</li> <li>・継続的に出来るようにワークシートに記入できるようにし、家庭との連絡を細かく取り、励ましてもらえるようにする。</li> <li>・なかなか振り返りができない子どもには、頑張りカードなどを見て思い出すように助言する。</li> <li>・友達の話を聞くことで、新たに挑戦したいことが増えたり、試行錯誤したりするようにする。</li> </ul>	<p>△(イ)②</p> <p>△(ウ)②</p>
<p>4 (えがおのはなをさかせよう)</p>	<p>9 発表用のカードを準備し、みんなと共有する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・家で挑戦してみたことの中で、笑顔がひろがったと思うことを選んでみよう。</li> <li>・褒めてもらって嬉しかったことを書こう。</li> </ul> <p>10 良かったことや気づいたことを友達と紹介し合い、これからも続けたいことを考える。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなががんばると喜んでくれる人がいるんだね。</li> <li>・学校で笑顔を増やすことはできるかな。</li> <li>・生活科の学習が終わっても続けたいな。</li> </ul> </p></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番伝えたい活動をなかなか選べない子どもに「家の人喜んでくれたことは何かな？」観点で声を掛けるようにする。</li> <li>・これまでにかきためたカードを使い、家の人への反応を思い出せるように声を掛ける。</li> <li>・発表の仕方が分からない子どもには、友達の発表の仕方を参考にし、個別に助言を行うようにする。</li> <li>・家の人にも自分たちがしたことを発信していく。</li> <li>・友達の発表を聞いて、気が付いたことや分かったこと、良かったところを見つけるようにする。</li> <li>・家族の声(連絡帳や手紙など)を紹介するようにする。</li> </ul>	<p>△(イ)③</p> <p>△(ウ)③</p>

## (1) 本時のねらい

家庭生活において、自分でできることや家庭での自分の役割があることに気づき、家族の温かさに気付いている。

## (2) 展開 (45分)

学習活動	教師の指導・支援	評価	準備物
1. 前時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔を広げるための作戦を考えたこと、そのために宿題で家の仕事を調査してきたことを確認する。</li> <li>・宿題のワークシートを共有し、笑顔について考えることを確認する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のワークシート①②</li> <li>・単元計画表</li> </ul>
2. 単元計画の確認			
3. 本時のめあてと学習内容の確認			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           さかせたいえがおのはなをみつけよう。         </div>			
4. 宿題の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家にどんな仕事があったか、誰がその仕事をしていたか発表させる。</li> </ul>	(イ) ① 発言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題のワークシート③</li> </ul>
5. 宿題の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家事の分担状況や、自分でもできそうな仕事に着目させ、調査をして考えたことや、思ったことを書き、発表させる。</li> </ul>	(イ) ① 記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート④</li> </ul>
6. 家事について考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家事を分担することで、家族の笑顔に繋がることを考えさせる。</li> </ul>	(ア) ② 発言	
7. 笑顔の分類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な家事の分担で生まれる笑顔の種類（なかよしのえがお、ありがとうのえがお、すごいねのえがお）について考えさせる。</li> </ul>		
8. 自分が目指す笑顔を選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にできそうな仕事や、頑張りたい笑顔の種類を選ばせる。</li> </ul>	(ウ) ② 発言・記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート④</li> </ul>

## (1) ねらい

ゲストティーチャーから家の仕事の仕方を学び、体験する。

## (2) 展開(45分)

学習活動	教師の指導・支援	評価	準備物
1. 本時のめあてを確認する これまでの学習の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーの紹介。 (食器洗い・体操服や給食服の準備・タオルや洋服をたたむ・台ふき)</li> </ul>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           ゲストティーチャーからいえのしごとのやりかたをまなぼう。         </div>			
2. 実際に体験する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～5人のグループで体験させる。</li> <li>・各グループを見る。</li> <li>・自分でもできそうだという自信を持てるようにする。</li> <li>・家の人のお手本を見て、実際に体験し、工夫しているところなどを考えさせる。</li> </ul>	(イ) ②	台ふき 体操服 給食服 汚れた食器 スポンジ 洗剤 タオル 洋服
3. ゲストティーチャーへ質問する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験していて不思議に思ったことや、聞いてみたいことを質問させる。</li> <li>・声の小さい児童にはサポートする。</li> </ul>		
4. 感想を話し合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから家でやってみようと思うことや、体験してみて感じたことや思ったことについて発表させる。</li> </ul>		

- (1) 本時のねらい  
家で挑戦したことを友達に分かりやすく伝え、家で役割が増えた自分の成長や友達の良さに気付いている

## (2) 展開(45分)

学習活動	教師の指導・支援	評価	準備物
1. 単元計画の確認  2. 本時のめあてと学習内容の確認	・発表用ワークシートから本時のめあてを確認する。		・挿絵
いえでちょうせんしたことをつたえあおう			
3. 家でした仕事を共有する。	・家で挑戦したこと(仕事のコツや感想)を発表させる。	(イ) ③	ワークシート
4. 発表を聞いて仕事について考える。	・新たに挑戦したいことや試行錯誤したいことが生まれるように考えさせる。	(ウ) ③	ワークシート

## (1) ねらい

家で挑戦したことを絵や文章で書いたり、実演したりして、友だちに分かりやすい伝え方の工夫をすることができる。

## (2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	○評価・備考
導入	1. 前時のふり返り。 「しゅくだいをすぐにした。」 「せんたくものをたたんだ。」 「いもうとのおせわをした。」	・ 中間発表会の後に家で挑戦したことを児童に発表させる。	
ひろがった えがおを カードでみんなにしょうかいしよう。			
展開	2. 発表用カードを書く。 ・ 一番みんなに伝えたいことをカードに絵と文で書く。  3. 発表用カードを班で共有する。  4. 発表用カードを学級全体で共有する。 「みんなががんばるとよろこんでくれるひとがいるね。」 「これからもつづけていきたいね。」	・ 自分が取り組んだ活動の中で一番みんなに伝えたいことをカードに書くようにする。 ・ 伝えたい活動を選びにくい子どもには、「家の人が喜んでくれたことは何か？」など別の観点で声をかけるようにする。  ・ 4人班で発表用カードの内容の話し合いを始める。 ・ 友達の発表を聞いて、気がついたことや分かったこと、良かったことを見つけるようにする。  ・ 発表用ができた児童のカードを教師が黒板に「すごいねのえがお」「なかよしのえがお」「ありがとうのえがお」に分類して掲示する。 ・ 発表ができなかった児童の発表用カードも前に掲示する。	準備物・・・ 発表用カード  △(イ)③
まとめ	5. 次回の活動を知る。	・ 次回はこれからも挑戦したいことや続けたいことを考えることを予告し、見通しを持たせる。	



## 7 成果と課題（○成果 ●課題）

### < 単元について >

- 保護者の方にゲストティーチャーを依頼したのがよかった。
- 学級活動にもつなげることができた。
- 冬休みの宿題など、長期に渡って取り組むことができた。
- E S Dとの関連を意識してすすめていくのが難しかった。

### < 児童について >

- お家の人のために、自分ができることが増えていき、ひとりひとりの成長につながった。
- 保護者からの手紙を読んだ時の反応がよく、また頑張ろうという気持ちをもつことができた。
- 「深い学び」ができていのかどうか評価するのが難しかった。

1年生

ひろがれ えがお (全10時間)

1日の生かつをふりかえろう「朝起きて寝るまで何をしているかな？」

みつめる

わたしは自分で起きて  
いるよ。

弟と一緒に本をよんだよ

お手伝いをするとほめ  
てもらえるよ

自分と友だちの1日では同じところや違うところがあるんだね  
お家にはたくさんの笑顔があるんだね

ひろがれ えがお にこにこ だいさくせん !!

どんな時にお家の人  
が笑顔になっている  
のかな？

しらべる

家の仕事を見つけよう

仲良しの笑顔

弟や妹の世話  
祖父母の肩たたきなど

ありがとうの笑顔

洗濯たたみ  
風呂掃除など

すごいねの笑顔

朝一人で起きる  
学校のしたくを1人でできる

弟の世話をしてもっ  
と仲良くなりたいな。

ゴミ出しを手伝っ  
てみようかな。

自分のことがもっとで  
きるようになりたいな。

ふかめる

みんなに笑顔を広めるためになにができるかな

自分でできる仕事や自  
分でできることを見つ  
けよう

自分で決めた仕事を家  
で挑戦してみよう

家で挑戦したことを伝  
え合おう

ひろげる

広がった笑顔をどうやって伝えたらいいかな

発表用のカードを準備  
しよう

良かったことや気づい  
たことを紹介し合おう

これからも続けたいこ  
とを考えよう

ほめてもらって嬉  
しかったことをか  
きたいな

みんなが頑張ると  
喜んでくれる人が  
いるんだね

冬休みも挑戦  
したいな